

教科等名：図画工作

グループ：小学部 I コース高学年ブロック
図画工作 2 グループ

事例報告者：教員F

2 事例研究の経過

①実態把握

②授業実践

③学習の様子

④考察、授業改善

実態把握① 2、3学期

I コース

小高

2G

非公開

2

小2

小1

小2

小1

小2

小2

小2

指導内容及び目標の段階一覧 (R7 2・3学期)

教科 (図画工作・美術)



コース		IIコース			Iコース														
学部		小A	中A	高A	小低			小中			小高			中			高		
グループ					1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G
指導者	CT 免許 美術専科	非公開																	
	ST数	4	2	2	2	3	3	2	3	3	1	2	2	3	2	4	3	3	
児童生徒	国語の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	小3	中1	小3	小3
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小3	小1
	数学の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小3	小3	小1	小3	小2	小2	中1	小3	中1	小3	小3
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小3	小1
単元1	A 表現【絵画】	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
単元2	A 表現【造形】	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
単元3	B 鑑賞	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	

【グループの児童の様子】

- ・ 5名の児童がおり、言葉で簡単なやり取りができる児童、発語はないが教師の簡単な指示を理解し、イラストや写真を指差しや身振り等で意思を伝えられる児童と実態は様々である。
- ・ 聴覚過敏の児童、周りの刺激に注意がそれやすい児童、同一保持にこだわる児童がいる。
- ・ 色や形の違いが分かり、自分なりのイメージでおおまかな形を捉えて描く児童、点々や大小の弧をなぐり描きする児童と実態差がある。
- ・ 全体的に手指の力の調整や、描いている線を止めたり、方向を切り替えたりすることが難しく、手指を動かす力が育っていない。

授業実践

【教科名】 図画工作

【単元名】 吹き流し

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) ①絵の具を垂らし、色々な方向に吹く力
- ②吹きかけた息で垂らした絵の具が広がることに気付く力
- (2) ①道具の名称や使い方を知る・覚える。
- ②色を選ぶ力や言葉を動作を一致させる力

2 指導観

- (1) 絵の具を適量、垂らしやすいようにスポイト2種類
吹きやすいように太さの違うストローを3種類用意し、
長さは児童に合わせて調節する。
- (2) 言語と絵カードをセットで用意し、意思表出を促す。

【学習指導要領上の段階】 小学部 1、2 段階

【単元の目標】

知	・ 絵の具の量や用具の力加減を工夫して、表したい線や形、色などを塗ったり描いたりすることができる。
思	・ 好きな色や配色を見付け、自分の感じたことや思い付いたことを表現することができる。
学	・ 偶然できた形や線、色の重なりからつくり出す楽しさを感じ、進んで活動しようとしている。

【本時の内容】 吹き流し

【本時の目標】

知	・ 道具の名称や使い方を知り、絵の具を紙に垂らすことできる。 ・ ストローを使って吹くことができる。
思	・ 自分の好きな色を選ぶことができる。 ・ 絵の具の広がり方を見て、吹く方向や吹き方を自分なりに工夫することができる。
学	・ 教師とやり取りをしながら活動に進んで取り組もうとしている。 ・ 表現することに楽しさや面白さを感じ、自分から活動に取り組もうとしている。



- ・ 絵本『ふーってして』
- ・ 絵本を見聞きし、吹き流しのやり方が大まかに捉えられるようにする。
- ・ 自分の体を使って、児童が表現に主体的に関われるようにする。
- ・ 友達と交互に取り組むことで、友達の活動に視線が向きやすくなるようにする。

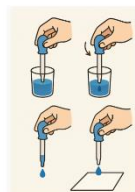


* 教材

- ・ 使う道具の名称のカード
- ・ 動詞と動作のカード
- ・ 絵本

* 手立て

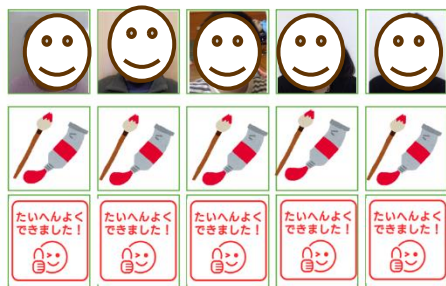
- ・ 絵の具を垂らす際に、絵本と同じ構成で取り組んだ。
- ・ 液を垂らす時は「ポタポタ」、吹く時は「ふー」と声掛けし、動作を明確にした。
- ・ 振り返りは、使った色や頑張った動作を選択できるように、絵と文字カードを提示した。



たらす



ふく



①成果

- ・絵本の読み聞かせを通じて、大まかな活動内容をイメージさせ、見通しをもたせることができた。
- ・2回実施することで、手順や取り組む内容等を児童がどの程度分かっているか確認することができた。
- ・自分で「スポイトを押す→絵の具が垂れる」、「吹く→垂らした絵の具が動く」と視覚的にも分かりやすく、主体的に活動に取り組めた。

②課題

- ・絵の具を吹くことよりも、垂らすことに夢中になる児童がいた。次回は、垂らす回数等を決める必要もあると感じた。

①成果

- ・ 振り返りでは、授業の中で覚えた言葉で伝える児童や絵や文字カードを見て指差す児童もいた。
- ・ 絵本の読み聞かせで、ポイントとなる単語やフレーズに動作を交えて読むことは、語彙を覚えるために有効であり、児童の理解度の確認に繋がった。

②課題

- ・ 今回は用意した全ての色を選んだが、次回は、「どっちにする」等の声掛けを行い、児童の意思の表出を促す。
- ・ 2種類のスポイトを用意したことで、どちらかは扱えた。「おす」「はなす」等の視覚支援や声掛けを丁寧に行うとより活動がスムーズになると感じた。

10月

議題

【教科】

よりよい授業にするための手立て

メンバー

教員F、他7名

よいところ

ストローの太さが選べるところがよい。

児童の実態に対応できるように、ストローを何種類か用意されていたのがよかった。

活動内容と合った絵本を導入で読んでいて、見通しがもちやすい。

絵本を使った導入で注目を促していた。

テーブルを用いることで2人1組の活動が見やすくなりよかった。環境設定の大切さ。

1回目だったので、自由に活動できる時間が確保され、児童の実態を把握することができていた。

課題等

息が届かない児童もいたので、高さ調整をしていく。

スポイトも数種類あってもよかったかも。

例えばクラッカーや木などをテーマとして作品作りを行ったら、方向性とか広がりが見られたり、イメージを持って取り組めたりするかもしれないなと思いました。

共同作品なんか面白いかもしれない。

テーマを指定して取り組んでみても面白いかも。

今後ペアを変えてもおもしろいかも。

10月

議題

【言語】

よりよい授業にするための手立て

メンバー

教員F、他7名

よいところ

視覚支援を用いて手順が分かりやすいようになっていた。

絵本と連動する内容で言語能力の育成にもつながっていた。

「スポット」や「ストロー」など、実物とイラストで名称を確認できてよい。

言語表出が難しい児童にも対応できるようにカード等を使ってよい。

ポタポタ、ふーっとが簡単な言葉でわかりやすく使いやすい

イラストや写真を使って振り返りができることで、発語のない児童も表出ができてよい。

絵本に出てくる「ふー」などの表現を使うことで、イメージがしやすくてよい。

課題等

2人1組なので、可能なら「貸して」「いいよ」等のやりとりが必要な場面があってもよいかも。

色が混ざった箇所に対して、「何色になった？」等のやり取りがあると、言語活動としてよいのではないか。

この映像もほしい

実態的に難しいかもしれないが、完成した作品が何に見えるのか聞いてみるのもよいかも

①成果

- ・ 絵本を使った導入をすることで児童の注目を引き、見通しをもって活動することができた。
- ・ 2人1組で1つのテーブルで活動することで、お互いの活動が見やすくなった。
- ・ ストロウの太さが選べるようになっていたことで、個々の吹く力の違いに対応することができた。
- ・ 絵本の手順と同じように活動することで、見通しをもって取り組むことができた。自由に活動する時間が確保されていた。

②課題

- ・ 息が紙に届いていない児童もいたので、高さを調整するなど工夫する。
→画版の使用を検討。
- ・ テーマを指定して取り組んでみても面白いと思う。
- ・ 共同作品をつくってみてもよいと思う。

①成果

- ・ 視覚支援を活用することで、児童に理解を促していた（手順表の活用や振り返りの場面）。
- ・ 絵本と連動する内容を行ったり、絵本に出てくる言葉を用いて児童に支援したりしていたため、分かりやすかった。
- ・ 使う道具の名称をイラストを用いて確認していた。

②課題

- ・ 2人1組で活動するので、「かして」「いいよ」などのやりとりがあってもよかったのではないか。
 - ・ 複数の色が混ざった部分について、「何色になった？」などと問いかけると、より深まったのではないか。
- 『どんな色が好き？』を歌っているため、問いかけてみたいと思う。
- ・ 完成した作品が何に見えるか児童に尋ねてみてもよかったのではないか。
- 様々な意見が出るから面白そう。食べ物を答える児童が多い。

①成果

- ・ 事前に紙だけを吹く体感をすると、前回ストローが上手くできなかった児童もストローで吹くことができた。
- ・ 画板を用いたことで、吹く方向や絵の具の量に応じて高さや向きを調節でき、活動がスムーズになってきた。
- ・ 描くテーマを決めたことで、児童が「おばけ」をイメージした色や好きな色を用いて描くことができた。
- ・ 児童の特性やCT、STとの兼ね合いで2人1組のペアにしたことで、自分と違う視点に気付き、言葉をまねする等のきっかけになった。

②課題

- ・ ペアの友達以外の活動にも少し着目できる時間が設定できるとよかった。（1人から2人、全員と人数を増し、活動する。）

①成果

- ・色や描いている題材を、STとのやり取りで答えることができた。また、全体のまとめの中で、頑張った部分や好きな色を言語カードを手掛かりに指差したり、答えたりすることができた。
- ・絵本の言葉でより活動のイメージが膨らみ、動作と言語を一致できた児童もいた。

②課題

- ・友達の作品の感想を言える場面を設定する。
- ・児童が頭で考えたことを言葉で引き出すような声掛けをしていく。

議題 11/18

【教科】

よりよい授業をするための手立て

メンバー

教員F、他7名

よいところ

紙吹雪を使って「吹く」ことをしてからストローを使ったことがよかった。

絵本の内容を意識してストローで息を吹いているところがよかった。

画版があることで、児童に合わせて微調整できていてよい。

おばけのテーマがあることで児童にとってイメージしやすくてよかった

課題（おばけ）を与えて自分でイメージしたお化けを制作できたところがよい

ストローの太さを選ぶときに、こちらの意図したものと違うものを選んで、「こっちもやってみよう」と声をかけてチャレンジしているところがよかった。

「おばけ」のテーマや型紙があることで、「かわいい感じにしたい」等、子どもが自分なりのイメージで取り組んでいた。

課題等

吹く力の強い児童に粘性の強い絵の具の使用はどうか。

今回の作品は完成時に立ててしまうと、絵具が垂れて作品がかわってしまうため、写真に撮って、テレビで大きく映すことで、全員が同じものを同時に見れるのではないか感じた。

議題 11/18

【言語】

より良い授業をするための手立て

メンバー

教員F、他7名

よいところ

「どんなおばけにするの？」という問いかけがよかった。

おばけを用いることでイメージをもって作品につなげていてよかった。

ペアの友達と見合うことで色の名前やどんな感じか等の言語活動が促されていてよかった。

スポットから絵の具を垂らす時に、教師が「ぽたぽた」や「ふー」と言いながら取り組むことで、絵本とのつながりができていると感じた。

友達の作品を見て「どう？」と聞く場面があり、言語を引き出そうとする場面設定でよかった。

毎回絵本を導入で使うことで、「吹く」ことが更にわかりやすく定着できたのだと思う。

お化けの型紙を予め数種類準備しておくことで、選択時に言語等で表出する機会を作ることができた。CTの声掛けも効果的だった。

課題等

頑張ったことなどは、写真を見て選ばせてもよいかも。

発語がない児童は、友達の作品のどちらがよいか聞いても面白かったかなと

時間が足りないかもしれないが、吹いている様子を自分で見たり、他のペアに見せたりすることができると、感想発表等の言語活動が更に活発になるかもしれない。

全員の作品を1枚ずつ黒板に並べて貼って、「かわいいおばけはどれかな？」「おもしろいおばけはどれ？」等を最後に聞くのもよいかもしれません。表情カードとかを使いながら・・・

発語があまりない子の発表時に、教師が頑張っているところを代弁することで、他の児童にもフィードバックできるのではないかな。

①成果

- ・紙吹雪を使って「吹く」ことを意識できていてよかった。絵本の内容を意識してストローで息を吹いているところがよかった。
- ・画版があることで、児童に合わせて微調整できていてよい。
- ・おばけのテーマがあることで児童にとってイメージしやすくよかった。

②課題

- ・吹く力の強い児童に粘性の強い絵の具の使用はどうか。
- ・作品を写真に撮って、テレビで大きく映すことで、全員が同じものを同時に見れるのではないかと感じた。

①成果

- ・ペアの友達と見合うことにより、色の名前やどんな感じか等の言語活動が促されていてよかった。
- ・スポットから絵の具を垂らす時に、教師が「ぽたぽた」や「ふー」と言いながら取り組むことで絵本とのつながりができていると感じた。
- ・友達の作品を見て「どう？」と聞く場面があり、言語を引き出そうとする場面設定がよかった。
- ・お化けの型紙を予め数種類準備しておくことで、選択時に言語等で表出する機会を作ることができた。

②課題

- ・全員の作品を1枚ずつ黒板に並べて貼って、「かわいいおばけはどれかな？」等を最後に聞くのもよいかもしれない。
- ・頑張ったことなどは、写真を見て選ばせてもよいかもしれない。
- ・発語がない児童は、友達の作品のどちらがよいか聞いても面白かった。発表時に、教師が頑張っているところを代弁することで、他の児童にもフィードバックできるのではないか。

3 成果と課題

〔成果〕

【教科の力】

・ 児童の息を吹く力の違いに対応できるように、太さの異なる複数のストローを用意したり、画板を用いて角度を付けたりすることで児童の製作活動が活発となった。児童の実態に合わせた道具の選定を行うことが有効であった。

【言語能力】

・ 他の児童と作品を見合ったり、STとやり取りをしたりする中で、色の名前や感想などの言語活動が促された。発語のない児童も言語カードを指差して、頑張ったところを答えることができた。他者と対話する場面を設定することが言語能力の育成に繋がった。

〔課題〕

【教科の力】

・今回は2人1組で活動に着目し合ったことで、自分と異なる視点に気付くきっかけとなった。徐々に着目する人数を増やし、更なる協働的な学びへと繋げていきたい。

【言語能力】

・作品鑑賞では、児童の作品を一斉に提示して見比べたり、CT、STが見立ててあげたりすることで、更なる言語能力の育成に繋げていきたい。児童生徒の発言を拾い、広げていくことが重要である。